

地方大学・地域産業創生交付金（帯広市）〈R7年度～R16年度（R11まで国費支援）〉 （十勝型フードシステムの形成 ―農畜産と食品加工の連携による価値創出―）

概要

- 十勝の強みを生かした**十勝型フードシステムの形成**を目指し、**持続可能な農畜産業への移行により生産基盤の安定化**を図るとともに、**食品加工業との協同化によるブランド力向上**を図る。
- 北海道国立大学機構（帯広畜産大学、小樽商科大学、北見工業大学）では、3大学の融合を加速し、**生産・加工・流通・消費に至るバリューチェーン**を包括的にコーディネートできる**専門人材の育成と研究開発**に取り組む。

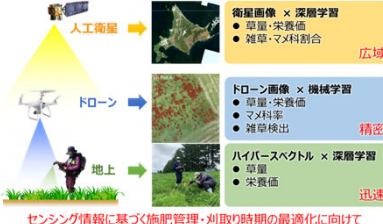
活動内容

（プロジェクトの狙い）

- 十勝地域では、労働人口減少、飼料・肥料等の生産資材価格の高騰等の環境の悪化に加え、多くの農畜産物が加工されずに原料のまま移出され、域内で十分な付加価値が生まれていない状況。
- そこで、畑作と酪農を有機的に組み合わせた**持続可能な農業モデル**により、**生産の安定と品質の確保**を目指しつつ、**加工・商品開発**を通じて地域内経済の循環を促進する。

（具体的取組）

- 次世代農畜産技術実証センターの機能を強化し、**大規模データに基づく生産・収穫管理、堆肥・牛床敷料の量産化、スマート農業向けの作物育種の開発**等を行うことで持続可能な農業への移行を図る。
- 帯広畜産大学に**食品加工実証センター**を新設し、同センターの下に**チーズ工房、小豆に関する研究所**を設置することにより、**嗜好性・機能性の高いチーズ、小豆加工品等**のマーケティング、開発、ブランディング、販路拡大に取組み、地域内の経済循環を高める。
- 3大学の教員を配置した**融合教育連携室**を新設し、「**フードバリューチェーンコーディネーター育成プログラム**」を始めとする**農商工連携の融合型教育プログラム**を開発・実施することで、**即戦力人材**を地域に輩出。将来的に**学位プログラム**を創設。



大規模データに基づく生産・収穫管理



次世代堆肥化ロボットの開発



チーズ製造実習の様子

事業責任者：金山 紀久（公益財団法人とかち財団・理事長）

＜令和7年7月時点＞

主な参画機関：（官）帯広市（学）国立大学法人北海道国立大学機構（帯広畜産大学、小樽商科大学、北見工業大学）

（産）よつ葉乳業株式会社、ISHIYAグループ、十勝農業協同組合連合会、帯広市川西農業協同組合、NTT東日本株式会社 他